

 中道リース株式会社
環境活動レポート 2014



中道リース株式会社 環境活動レポート(2014 年度版)

当社は地球も大切なステークホルダーと位置づけ、事業活動を通じ、人と自然が支え合う社会の創造に向けた環境活動に意欲的に取り組んでいます。

経 営 の 理 念

『わが社は事業を通じ、社会の発展に貢献する。』

1. 業績を高め、株主の期待に応える。
2. 従業員の生活向上と働きがいある企業づくりをめざす。
3. 取引先との共存共栄をはかり、社会との連帯を深める。

基 本 方 針

わが社は『経営の理念』のもと、緑豊かな地球を次世代に引き継ぐため、リース事業を幹とした金融サービスを通じ、適切な品質提供と環境保全に取り組めます。

この方針は、全役職員への周知徹底とともに、法令及び当社が同意するその他の要求事項の順守を根に適切性維持のため見直し、継続的に改善します。

品 質 方 針

- ◎ 地域営業基盤を強化するとともに顧客サービスの継続的改善をめざします。
 - * 顧客ニーズへの適切な対応
 - * 迅速な顧客対応
- ◎ 営業資産の健全化と与信管理の充実をはかります。

環 境 方 針

- ◎ 天然資源の枯渇防止を目的とし、循環型社会の形成に寄与します。
 - * 省資源・省エネルギー・再資源化の推進
 - * 環境汚染予防の推進

本方針書は、社内外に公表します。

2010 年 3 月 2 日
中道リース株式会社

代表取締役社長

関 寛

当社では、環境パフォーマンスの取り組み項目を充実させながら、その実績と自己評価を掲載しています。
社会貢献活動や環境保全活動を推進し、地域の発展に貢献する「良き企業市民」としての役割を果たしていきたいと考えています。
自己評価の○は目標達成、△は一部達成、×は未達成を示します。

資源の枯渇の抑制と地球温暖化対策

【エコオフィス活動の推進】

取り組み	2014年度目標	2014年度実績	目標対比	自己評価
コピー用紙使用量削減(枚)	- (500,000)	1,462,391 (443,962)	- (△56,038)	○
グリーン商品購入比率(%) ※1	(55)	(51)	(△4)	×

(注) 1. 測定対象は全社、()は本社数値
2. ※1 集計方法は商品種類

【省エネ・省資源・環境汚染予防の推進状況】

取り組み	2014年度目標	2014年度実績	目標対比	自己評価
電気使用量削減(kw)	- (90,000)	215,763 (79,721)	- (△10,279)	○
電力のCO2排出量(kg-CO2) ※1	- (56,000)	108,529 (40,100)	- (△15,900)	○
紙の消費に伴うCO2排出量削減(kg-CO2)	- (2,600)	7,487 (2,273)	- (△327)	○
総エネルギー投入量削減(Mj) ※2	- (950,000)	3,322,684 (727,217)	- (△222,783)	○
営業車の燃費向上(km)	15.0	15.9	0.9	○
環境低負荷型車両導入(台)	9	11	2	○
営業車両のCO2排出量削減(kg-CO2)	- (39,000)	169,239 (29,263)	- (△9,737)	○
温室効果ガス排出量(kg-CO2) ※3	- (90,000)	280,227 (71,636)	- (△18,364)	○
一般廃棄物の発生量削減(t) ※4	(2.3)	(1.65)	(△0.65)	○

(注) 1. 測定対象は全社、()は本社数値
2. ※1: 電力会社公表の平均係数を基に算出
3. ※2: Mj換算した電気、営業車の合計
4. ※3: 原換算した電気、紙、営業車の合計
5. ※4: MIXペーパー、シュレッダー、ペットボトルの合計

【カーボンオフセットの取り組み】

プロジェクト名	実施機関	オフセットの対象	CO2排出量 削減値	総エネルギー投入量 削減値
			(kg-CO2)	(Mj)
北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業	森林バイオマス 吸収量活用協議会	営業車から排出され るCO2	-52,000	-782,261
サンタの森づくりプロジェクト	広尾町	本社で使用する電力 から排出されるCO2	-25,000	-130,824

(注) 1. カーボンオフセット対象期間は2014年1月1日～2014年12月31日となっています。

環境配慮型物件(輸送用機械)の取り組み拡大

中道リースでは、資源の枯渇の抑制や地球温暖化防止に取り組んでいるお客様の設備投資(環境配慮型輸送用機械)に対し、リース契約や延払売買契約等の商品及びサービスの提供を通じて、環境に配慮した社会の構築に貢献したいと考えています。

運輸・通信業実績	2014年度目標	2014年度実績	目標対比	自己評価
総取扱実績(百万円)	11,000	9,991	△1,009	△

輸送用機械実績	2014年度
総取扱実績(百万円)	14,127
リース取扱実績(百万円)	8,671

自動車実績	2014年度
リース取扱実績(百万円)	8,486

新環境配慮型物件の取り組み

2015年度より新たに環境配慮型物件を設定いたしました。環境配慮型物件認定基準に基づき、取り組みの強化を目指します。

【環境配慮型物件】

環境配慮型物件実績	2014年度
総取扱実績(百万円)	717

※2015年より新認定基準を採用したため、自己評価なし。

【環境配慮型物件認定基準】
平成17年以降の排ガス規制に適合された車輛総重量
3.5t以下の乗用車および貨物自動車

リース満了品の3R推進方針

リース期間が満了した物件は再リースを通じリデュース(廃棄物の抑制)に努め、返還された物件はリユース(再利用)を最優先とし、廃棄物となった場合でも適正処理にてリサイクル(再資源化)に取り組んでいます。

再リース移行率(リデュース)	2014年度目標	2014年度実績	目標対比	自己評価
再リース移行率(%)	63	65	103%	○

リース満了物件リユース率	2014年度目標	2014年度実績	目標対比	自己評価
リユース率(%)	86	87	101%	○

(注)リユース(売却件数) / リース満了件数

廃棄物件リサイクル率	2014年度目標	2014年度実績	目標対比	自己評価
リサイクル率(%)	90	92	102%	○

(注)リサイクル(Kg) / 廃棄総数量(Kg)

2014年度 環境会計

I)環境保全コスト

(単位：千円)

分 類		主な取り組み内容	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト			0	1,144
内 訳	地球環境保全コスト	環境配慮型車輛の導入		△151
		省エネ機器導入		0
		カーボンオフセット排出権購入など		1,250
	資源循環コスト	マニフェスト伝票、MIXパ-パ-袋代金など		45
(2)上・下流コスト			0	930
			グリーン商品購入	232
			リース満了物件の回収費、処理費	698
(3)管理活動コスト			0	957
			環境監査費用、環境教育費用	403
			ISO14001審査費用	337
			委託業者現地調査費用など	217
(4)社会活動コスト			0	0
合 計			0	3,031

II)環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パ-フォーマンス指標(単位)	前期(基準)	当 期	環境保全効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量(Mj)	3,770,952	3,322,684	448,268
	(オフセット後)	2,733,441	2,409,599	323,842
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	CO2排出量(Kg-CO2) *1	316,932	285,225	31,707
	(オフセット後)	239,932	208,225	31,707
	一般廃棄物排出量(t)*2	2.4	1.7	0.7
	紙-用紙使用量(枚)	1,443,375	1,462,391	△ 19,016
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	産業廃棄物(リース満了物件)最終処分量(Kg)	413	733	△ 320

*1 電力会社公表の平均係数を基に算出

*2 測定対象：札幌本社

III)環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位：千円)

効果の内容		金 額
収 益	リース満了物件の売却利益	93,601
費用節減	環境配慮型車輛導入、燃費向上による燃料消費削減	1,201
	コピー用紙使用量削減	△ 75
	3R推進による廃棄物処理費の削減	303
	電気使用量削減	123
合 計		95,153

生物多様性行動指針

私たち人間も含めた様々な生物が生まれ、それぞれがつながっている生物多様性に関する行動指針。

生物多様性行動指針

基本理念

生物多様性は、人間や動植物を含むさまざまな生物が持続する為の源であり、人間社会に様々な恩恵をもたらしてきました。それは、次世代に引き継がなければならない財産です。

中道リースは、「経営の理念」「基本方針」「環境方針」に基づき、事業活動と生物多様性との関りを認識し、様々な事業活動を通じて生物多様性の保全と持続可能な利用を推進します。

行動指針

◆環境マネジメントシステム

生物多様性を環境マネジメントシステムにおける重要な要素と位置付け、すべての事業領域で生物多様性の保全と持続的な利用に努めます。

◆コンプライアンス

「企業倫理方針」に基づき、生物多様性に関する法令などを順守します。

◆教育

全役職員に対し、生物多様性に関する知識・法令などの教育を通して、理解の促進と意識の向上に努めます。

◆事業活動における取り組み

省資源・省エネルギー・再資源化・グリーン調達・環境汚染予防の推進など、「環境方針」に基づいた環境活動によって、生物多様性への環境負荷の低減に努めます。

◆社会貢献

生物多様性に関する社外の活動や社員のボランティア活動の支援、協力を努めます。

【植樹活動】

中道リースでは森づくりを通じて、地域の生物多様性の保全に取り組んでいます。

活 動 日：2014年9月24日(水)

活動場所：北海道札幌市「茨戸川緑地」

活動内容：札幌市が自然生態の復元を目的とし、整備を進める茨戸川緑地において「さっぽろふるさとの森づくり植樹祭&育樹祭」が開催され、社員が参加しヤチダモやイタヤカエデの苗木約80本の植樹活動を行いました。



その他の環境負荷対策

【森林づくりパートナーズ基本協定】

2011年5月11日に、「森林バイオマス吸収量活用協議会」(下川町、足寄町、滝上町、美幌町の4町で構成)と「森林づくりパートナーズ基本協定」を調印いたしました。この協定により、当社営業車の年間排出量の内、約50t-CO2を協議会と毎年オフセットしています。なお、当社が拠出した資金は4町が行う町有林間伐の資金に当てられ、森林の適切管理によるCO2吸収量の増大を目指す取り組みに役立てられています。

【サンタの森づくりパートナーズ基本協定】

2012年10月15日、広尾町と「サンタの森づくりパートナーズ基本協定」を調印しました。この協定により当社(札幌本社)が使用する電力から発生するCO2排出量の内、25t-CO2を毎年オフセットしています。なお当社が拠出した資金は広尾町の森林整備に役立てられています。

【エコマーク制服の導入】

女性一般職に貸与する制服を、2014年10月よりペットボトルから作られたエコマーク取得の制服といたしました。エコマーク制服とは総重量50%以上にペットボトルの再生繊維を使用した制服で、その比率が高ければ、廃棄後に再度プラスチック資源を回収することも可能です。

【環境美化活動】

中道リースでは、「身近な環境を守る」を合言葉に周辺地域の清掃活動を行っています。

活 動 日 : 2014年7月4日(金)

活動場所 : 北海道札幌市 本社周辺

活動内容 : 本社ビル周辺の清掃活動(タバコの吸い殻、ビニール傘などを回収)

活 動 日 : 2014年10月8日(水)

活動場所 : 北海道札幌市 本社周辺

活動内容 : 本社ビル周辺の清掃活動(タバコの吸い殻などを回収)

【エコキャップ運動の推進】

ペットボトルキャップを積極的に分別回収することにより、焼却処分の際に発生するCO2の抑制に努めています。回収したペットボトルキャップを売却し、発展途上国の子供たちに感染症のワクチンを届けるNPO法人エコキャップ推進協会の活動に賛同しています。

【処理委託会社への訪問現地調査】

リース期間が満了し、止む無く廃棄となった物件の処分については、産業廃棄物処理委託会社の現地調査を実施、遵法制・リサイクル率等、多面的に評価し選定・委託しています。

環境意識向上に向けた取り組み

当社は全役職員の環境意識の向上を目的とした支援体制をとっており、eco検定の受験、環境家計簿の作成を推奨しています。